

低栄養を「効率的に正しく評価する」 ための手法の同定・開発に関する研究

研究分野: 臨床栄養学、栄養治療学、老年栄養学

キーワード: 高齢者、リハビリテーション、低栄養、サルコペニア、摂食嚥下障害

貢献できるSDGsの区分:



看護栄養学部 栄養健康学科 教授 西岡心大

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/nish-shin/>

研究概要

- 成人における低栄養を評価するための手法として、従来はbody mass index (BMI)、血清アルブミン値など、様々な手法が用いられていました。そのため、低栄養の発生実態を把握したり、その影響を評価するための研究間で低栄養の定義が異なり、違うモノサシで判断した低栄養を一からげにして比較、評価しているような状況でした。
- 2000年代以降、低栄養の定義や評価に関して世界の臨床栄養関連学会で議論が進み、2018年には主要な国際学会が連携し世界初の低栄養診断基準(GLIM基準)を作成しました。日本では2024年に診療報酬に導入される急速に普及が進んでいます。
- このGLIM基準による低栄養診断基準に加え、栄養スクリーニング、栄養アセスメントという2つの栄養評価手順が、リハビリテーション医療の現場で①どの程度普及しているのか②どの手法が有効なのか(妥当性)③現在の手法よりも精度の高い手法を開発する必要があるか、について研究を進めています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- 対象者の特性(疾患、障害およびセッティング)に応じて、既存の栄養スクリーニングツール、栄養アセスメントツール、低栄養診断基準の有効性を検証する。
- 海外で使用されている既存のツールの和訳版を作成する。
- 既存のツールにおける限界を克服する新たなツール(プロセス)を開発する。

外部との連携実績等

①外部資金獲得実績

- ・日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究(No.22K17827, 2022-2026年)
- ・公益信託仲谷鈴代記念栄養改善活動振興基金(2020-2021年)